

武蔵野散歩

斎藤 功

昨年10月、大学側の厚意で東京西北部の公務員住宅（東久留米団地）に入居することができた。この団地は東京都と埼玉県との境であり、埼玉県側の野火止用水まで歩いて5分たらずである。したがって、日曜日などよくその付近を散歩する。以下、その雑感である。

戦前まで飲料水に使われていた野火止用水は、急速な都市化のせいで現在、水質汚染が著しいので、新座市は「ディスカバーふるさと」の名のもとにこの用水路のクリーン・アップ作戦を実施するとともに、野火止用水に沿って平林寺まで遊歩道を計画、一部設置されている。この付近は「おもしろき野をばな焼きそ古草に新草まじり生ひは生ふるがに」（万葉集巻14東歌）と読まれたように、古来焼畑・牧畜（牧）が行なわれていたところであるという（青鹿四郎：農業経済地理）。この当時のおもかげは残存せる平地林の雑木林、平林寺境内の赤松疎林下の禾本科草原にみることができる。その後、武蔵野は牧畑一切替畑・常畑と利用されてきたというが、大規模に利用されたのは江戸時代の新田開発であろう。

黒目川と柳瀬川に挟まれ、わが団地のある紡錘形台地上には、樺の屋敷森のある農家、短冊型の耕地割、平地林等が残存しており、新田集落のおもかげを残している。団地付近の新田集落では、都市化への農家の対応形態により集団的個人住宅（町の不動産屋の建設になる——当今、町人請負新田）、にんじん、ごぼう、大根などの根菜類畑、芝地、植木畑等が昔の耕地割に即して断続的にみることができるのは興味深い。また、日本列島改造論による地価、木材の高騰の故か、個人住宅の敷地は狭くなる一方なので駐車場を設置することができない。したがって、土地を手離さない普通の農家でも簡易駐車場、貸倉庫などを設置することにみられるように都市化の影響を直接的・間接的に強く受けている。この都市化の影響は最寄駅、バス路線から離れるにつれ弱くなる傾向をもっていると思われ、三富新田では短冊型の耕地を利用した大規模な養豚が行なわれている。

景観的にみる限り、農家ではテニスコート、ゴルフ練習場などを有し都市民に寄生しているように思われる。しかし内実はどうか実態調査の必要性を痛感している昨今である。